

香りとは

外来を受診している多くの人が人工香料で影響を受けています。

香りとは、本来生きるために必要なもの。

果物や木の実が熟し、おいしく食べることができるようになったことを知らせてくれる。

植物から見たら、「私の実を食べて、種を排泄し、私の子孫を世界にまき散らせて」

—と訴えている。

おいしそうな料理の香りは、生きるためのエネルギーやミネラルを与えてくれそうな予感を与えて気分を高揚させてくれる。

酸っぱいにおいは、もう少ししたら腐って食べることができなくなることを教えてくれる。

同時に、発酵が進んで、体にもいいよと教えてくれる。

腐ったにおいはもう食べちゃダメと教えてくれる。

ウンチのにおいは、これは食べちゃダメと教えてくれる。

花の香りは、虫を呼び寄せ、私の花粉をめしべまで運んでもらうようお願いする誘惑。

人は、それをかいで少しの喜びをいただく。

人工的なにおいは、人が喜ぶにおいを過剰に提供する。

その匂いによって、虚偽の感覚が生まれ、ヒトは惑わされる。

それが、人を一時的な虚偽の「いい気持ち」にさせる。

人工的に作られた香料は人の嗅覚を麻痺させ、ほのかな自然の香りを感じることができなくさせる。

麻痺した嗅覚はさらに強い人工的に作られた香料の使用に導く。

その香料の臭いは周囲の人達にも被害を及ぼす。

頭痛、吐き気、集中力の低下、不眠、粘膜の浮腫、皮膚の炎症—様々な障害が起きる

人工的に作られた香料に含まれるイソシアネートなどの化学物質は粘膜や皮膚を損傷する。

嗅覚と同時に味覚も壊され、おいしい味が分からなくなる。

柔軟剤や洗剤、化粧品などに使われたマイクロカプセルの被膜の原料のポリウレタンからはイソシアネートが揮発し、イソシアネートに対するアレルギー（IgE 陽性）が増えている。

子どもたちは、味覚や嗅覚の発達を阻害され、さらには他の知覚-痛みや接触感覚なども障害され、痛みにも過敏になり、落ち着きがなくなる。ほんとにおいしい自然な味を楽しむ能力をなくしてしまう。

嗅覚は毒物を見つける力。

毒物が、わかれば逃げて、体は大丈夫。

においがわかる力は大切に。

季節で変わっていく大気の草花の香りを楽しみ、

季節で変わっていく大気の潤いを楽しみ、

熟れたおいしそうな香りを愛で、

愛しい赤ちゃんの香りにほのぼのとし、

おいしそうな料理のにおいに誘われ、

おいしい水の味に舌鼓をうつ

そんな香りの楽しみ方をしてください。